

解 答 速 報

聖マリアンナ医科大学 一般選抜後期

1

[1]	人間の叫び声を対象とした科学研究は、痛みや恐怖といったような激しい苦痛による叫びだけしかほぼ焦点を当てておらず、その他の感情を発露とする叫び声には科学的に注意が向けられてこなかったということ。	
[2]	d	
[3]	強い発声を引き起こす典型的な感情の範囲を特定するために研究チーム自らの叫び声を録音し様々なシナリオに基づいて再現実験を行った上で、最終的に、痛み、怒り、恐怖、喜び、情熱、悲しみという6つの異なる評価すべき叫び声を選択した。(110字)	
[4]	研究参加者たちに対して痛みや恐怖を故意に引き起こすことは倫理的に容認されることではないから。	
[5]	(a) a	(b) 否定的な感情よりも良い感情から出る叫び声の方が聞き手の脳内でより大きな興奮を起こすことが fMRI 分析から示され、聞いた者は後者の叫び声をより早く認識するということ。(79字) [別解] 非警告の叫び声が最も早く認識されるという通説に反する結果に基づくと、叫び声を聞く者の環境が叫び声の受け取られ方に影響を与える可能性があると言えるということ。(78字)
[6]	d	
[7]	c	

2

1	2	3	4	5	6
a・d	[C]	a	b	d	b

3

I	1	(A) d	(B) b		
	2	(C) a	(D) b		
II	1	(1) a	(2) f	(3) h	(4) e
	2	b			
	3	d			

～講評～

- 1 : National Geographic 誌の 2021 年 4 月 14 日付の記事 *Human screams can convey at least six emotions* が出典で、「様々な感情を伝える非言語コミュニケーションとしての人間の叫び声」についての英文であった。本大学の例年通りの出題で、実験に基づく記述問題が目立った。記述量は前期よりやや少なかった印象である。問[5]に関して、問いの文言にある「関連する結果にも言及すること」が曖昧であるがゆえに、fMRI が示す結果と、従来の研究結果との関連を述べる解答と 2 つ掲載してある。
- 2 : 「騒音公害と鳥の健全な成長」に関する論文からの出題。比較的読み易い英文だったので可能な限り失点は避けたいところ。2025 年度前期の大問 2 では、例年とは出題形式が変わり、下線部の内容説明や段落要旨に関する内容一致問題の出題となっていたのに対し、今回の後期試験では例年通りの大問 2 の出題形式（内容一致や空所補充の形式）に戻っていたため、過去問で対策を行ってきた受験生にとっては取り組みやすい形式だったのではないだろうか。
- 3 : 平易な会話問題とポスター空所補充問題。ポスター補充問題のみだった前期からマイナーチェンジが施されていたが、問題自体は難しいものではない。ここもできるだけ失点は避けたい。

大問構成が前期同様例年通りで事前準備がしやすく、試験時間も 90 分という十分な時間が与えられていることを考慮に入れると、合格には 70%前後を目指したいところ。



メルマガ登録（無料）または LINE 公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！
メルマガ登録は左の QR コードから、LINE 友達登録は右の QR コードから行えます。



<p>渋谷校</p> <p>☎ 0120-142-760 東京都渋谷区桜丘町 6-2</p>	<p>名古屋校</p> <p>☎ 0120-148-959 名古屋市中村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p>	<p>大阪校</p> <p>☎ 0120-142-767 大阪府吹田市広芝町 4-3 4 江坂第 1 ビル 3F</p>
<p>個別専門館 麴町校</p> <p>TEL : 050-1809-4751 東京都千代田区二番町 8-20</p>	<p>京都校</p> <p>TEL : 075-746-4985 京都市下京区下諏訪町 360</p>	<p>医学部特訓塾</p> <p>TEL : 03-6279-9927 東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p>